

4. 諸課題に対応する海岸事業調査費の充実

①3D電子地図による国土保全の推進

東南海・南海、東海地震時の避難警戒システム（いわゆるハザードマップの策定等）に活用するため、航空機からのセンシング測距を始めとする最先端IT技術を適用し、海岸域の標高を広範囲に高精度でカバーする3D電子地図（データベース）を構築します。

②漂砂系を踏まえた砂浜の動的管理手法の検討（新規）

砂浜の流出土砂の量とその行方を解明し、新たな漂砂制御施設の設置可能性や、養浜砂の確保策として陸砂・海岸砂に加え、沖合砂の活用可能性を検討し、海岸侵食対策の実現を目指します。また、沖合砂の堆積状況について調査するために自律型海中ロボットを活用します。

③高潮情報システムの構築

防災部局と連携した迅速な避難や防災活動に資することを目的として、気象庁と連携し、海岸管理者が個別の海岸における高潮予測が可能となる計算プログラムを開発するとともに、国民経済上重大な損害を生ずる海岸について、高潮水防警報の発令に資するために、それらのデータを最新のITを活用し、高潮予測（うちあげ高等）を海岸管理者等へ提供する情報システムの構築を進めます。

④地球温暖化と海面上昇への対策の検討

海面上昇に伴う対応については、様々な知見を集約し、今後の進め方を検討していきます。

3D電子地図による国土保全の推進

— 航空機等を用いた効率的な防衛対策のための海域データ取得 —

— 海岸地形の把握は海岸保全計画の基礎 —

